

⑦9 令和2年7月豪雨における有明海・八代海に流出した漂流物回収活動

受賞機関 国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部
一般社団法人 日本埋立浚渫協会 九州支部
九州港湾空港建設協会連合会

キーワード 漂流物回収、災害協定団体との連携、漁業協同組合の協力

全建賞審査委員会の評価ポイント

令和2年7月豪雨により有明海、八代海に流出した漂流物の回収活動。災害協定団体や漁業者との連携により、7月4日～31日の期間にかけて、令和元年度1年間での回収量の約12倍となる大量の漂流物（15,883m³）を回収したことにより、航行船舶の安全確保及び海洋汚染防汚に大きく寄与した点が評価された。



海煌（左）及びクレーン付台船（右）による漂流物回収

1. はじめに

調査観測兼清掃船「海輝」「海煌」は、熊本港湾・空港整備事務所に所属し、熊本港と八代港を基地として有明海・八代海の海上漂流ごみの回収と水質・底質等の環境調査に従事している。

令和2年7月3日から4日にかけて人吉・球磨地方を襲った豪雨により、球磨川を經由して八代海に大量の漂流物（流木、竹、萱等）が流出した。

熊本港湾・空港整備事務所では、航行船舶の安全性を確保すべく調査観測兼清掃船「海輝」「海煌」の2隻を即座に投入し漂流物の回収作業に当たった。

2. 事業の概要

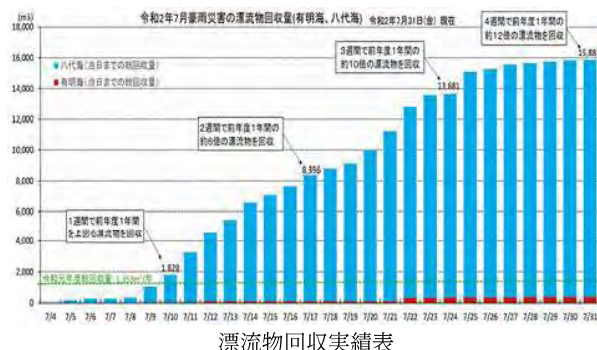
豪雨による有明海・八代海の漂流ごみは広い範囲で多くの流木等が海域に漂流していたため、日の出から日没まで作業時間の拡大を図ると共に、早々に北九州に配備されている「がなりゅう」を現地に派遣することで3隻体制とし、流木等の回収効率が向上された。

また、八代海北部においては南風や潮流の影響により浅海域に滞留し、九州地方整備局の保有の3船舶では水深が足りず回収不能なため、災害協定を締結している（一社）日本埋立浚渫協会および九州港湾空港建設協会連合会と連携し、クレーン付台船を1日最大6隻投入するなど現地状況に応じて効率的な回収を図った。

さらには漂流物の回収に先行して、港湾業務艇「かがしま」を活用して広域的な海面調査を行い、漂流物の回収場所をピンポイントで特定することにより、回収作業の効率化を図った。

3. 事業の成果

7月4日から7月31日の長期間にかけて、「海輝」「海煌」が令和元年度の1年間回収量1,353m³の約12倍となる回収量15,883m³を回収したことにより、有明海・八代海における流木衝突による2次災害を防止する等の航行船舶の安全確保及び海洋汚染防除に大きく寄与した。また、漂流物の早期回収により、海苔養殖の準備が支障なく開始できるなど社会貢献が図られた。



4. おわりに

今回の漂流物回収作業に当たり九州地方整備局だけでなく、中国地方整備局や近畿地方整備局からの広域応援、ならびに早期に台船の手配を行って頂いた（一社）日本埋立浚渫協会と九州港湾空港建設協会連合会の皆様、浅海域の回収に協力して頂いた各漁業協同組合の皆様がこの場をお借りして感謝すると共に、今後も引き続き、有明海・八代海の海洋汚染の防除に取り組んでいきたい。

賛助会員 五洋建設(株)、東亜建設工業(株)、みらい建設工業(株)、若築建設(株)